

留学生の健康管理に関するアンケート報告

平成 23 年度、本学の留学生、教員の皆様を対象に健康管理に関するアンケートを実施させていただきました。ここに結果をまとめ報告させていただきます。

外国での生活において健康問題は誰でも心配なことのひとつです。保健管理センターでは、留学生の皆さんが日本で快適な学生生活を送っていただけるよう、健康面からの支援を続けています。質の高い健康診断の実施ときめ細かい助言、英語での対応や啓発活動など、質の向上にも努めてまいりました。

今回のアンケート中の <保健管理センターへ望むこと、意見など> という設問には、留学生、教員の皆様から、たくさんの御質問、御指摘、御示唆をいただきました。ここに、我々保健管理センターからのメッセージも加えて御紹介します。貴重な御意見を賜りました方々へのお答えと御礼とさせていただきます。

今回の結果をもとに益々健康管理業務の向上につとめてまいりますので、今後とも皆様の御理解と御支援をお願い申し上げます。

アンケートへの回答協力をいただいた皆様、どうもありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

保健管理センター センター長 山本眞由美

アンケートのまとめ

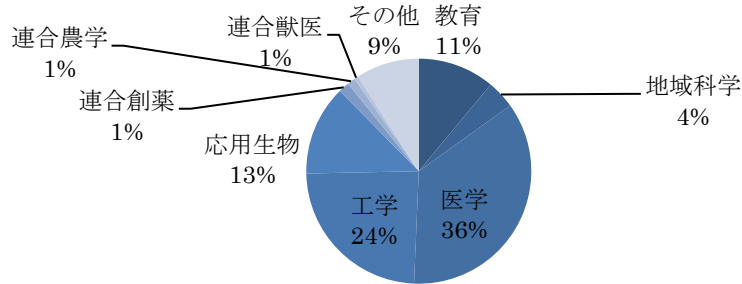
《対 象》

<留学生> 321人（回答 120人・回答率 23%）

- 年齢：28.5±4.9歳
- 滞在年数：2.9±1.9年
- 男性：61人 女性：59人
- 奨学金取得者：50%
- 出身国：中国、バングラディッシュ、ベトナム、マレーシア、インドネシア、他
- ひとり暮らし：61%
- 夫婦または家族：39%

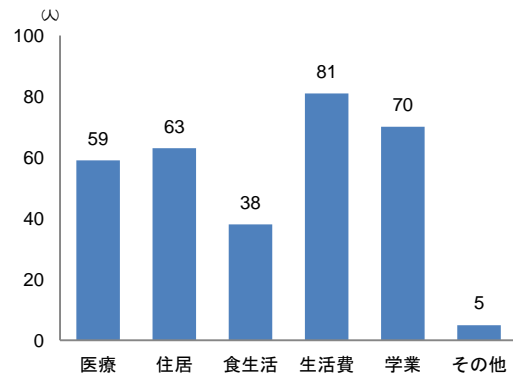
<教 員> 795人（回答 525人・回答率 66%）

- 年齢：44.9±9.6歳
- 教職年数：14.2±11.1年
- 男性：427人 女性：73人
- 教授：36% 准教授・講師：36% 助教：25%
- 所属：

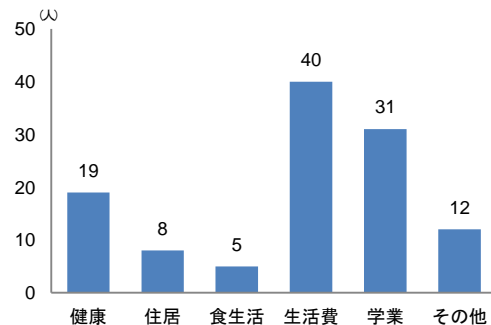


【留学生へ】

Q. 日本に来る前に、もっと情報があればよかったと思うことがありますか。
(複数回答あり)



Q. 現在、日本の学生生活で困っていることがありますか。
(複数回答あり)



Q. 困っていることは、どのようなことですか。

健康

- 病気になったら、治療費(お金)がかかり困ります。
- ~その炎症は、病院で何回診てもらっても治りません。
- こんな少しか寝ていないが、いいかどうかわからない。
- 小さい病気と大きい病気、それぞれどこへ行ったらいいか。
- 病院へ行く前に予約しないと、なかなか診察してもらえない。
- 放射能。
- 近くの医療機関がよくわからなかった。
- いつも便秘です。
- 言葉の壁により、病院で症状を説明するのに困る。
- 天気が違うのでいろいろ困ります。
- (日本の)気候の変化に順応できない。
- 血糖値が高かったこと。
- 生活が不規則だったので、ニキビの悩みと低血圧です。
- アレルギー性鼻炎。

住居

- 自分と主人が離れて住んでいること。
- 寮における規則が厳しすぎて、刑務所のように感じたことがある。
- アパートの費用が高い。
- 家賃のこと。
- 大学外で、良い住環境を求めると高価である。
- 夜遅くなったら、学校から帰る時ちよつと怖い。最近、友達からも危ない事件があったと聞いたからちよつと心配。

食生活

- 食費などのこと。
- イスラム教徒のための食材がない。
- 学校(おそらく子供)がイスラム教徒のための食事(給食?)を用意できない。

生活費

- アルバイトに応募するのは難しい。
- 奨学金をもらっていない、アルバイトする必要がある。
- 奨学金をもらっているが、(インドネシア)ルピアなので、日本円はとても高いから、自分でも支払わなければいけない。
- 生活費が高いです。
- 今まで、学校から奨学金を一度ももらっていない。
- 奨学金が少ない。奨学金に関する情報が、日本へ来る前に伝えられたことと、少し違っていた。
- 生活費がとても高い。
- 日本の物価が高い。
- 奨学金では生活費が十分ない。
- 学業とアルバイトの両立がしにくい。
- 留学生の生活が苦しいです。
- 授業料免除にできなかったし、奨学金ももらえない。
- 学業が忙しくて、バイト時間がない。

- 円高なので、仕送りがなくなる。
- 生活費が高いため、アルバイトをしなければいけないのですが、勉強の時間が足りなくなる。
- お金(生活費)がない。
- 奨学金制度のこと。
- 物価が高いと思う。
- 奨学金は十分な額でない。
- 日本は物価が高いので、奨学金がないと生活が困る。いい勉強がむずかしいと思う。
- 時々生活費が足りなくなって焦る。

学 業

- 日本語の問題があります。
- 論文のため、たまに悩んでいる。
- 博士論文がたいへん。
- 試験を英語でうけることができない。(日本語で答えなくてはいけないので苦痛)
- いつ卒業できるかわからない。
- 卒業ができるか心配です。
- 院生の試験について心配です。
- 最初に日本語がわからなくて困った。次に専門がかわって困った。
- むずかしいですが、頑張りたいです。
- しっかり勉強しないとついていけないです。勉強すべき事が山ほどあり、時間がないです。
- 専門の授業ですごく困っている。
- 日本語があまり上手でないから。
- 日本語の能力がないので、ずっと困っている。
- 日本語で英語を通訳するのは難しい。
- 言葉の壁のために、一般教養科目やその他のセミナーを学ぶことができない。
- 研究室のストレス。
- すべての情報が日本語であるため困る。
- 勉強がとて多く、プレッシャーもすごくある。
- 実験について。
- 研究が進まないと大変困る。
- 言葉の問題で、研究について困ることがたくさんある。

その他

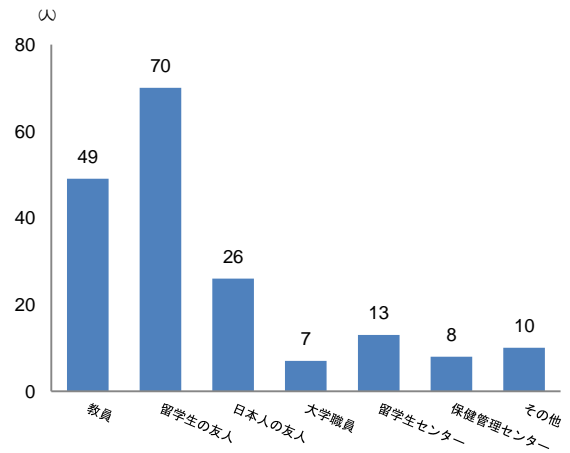
- 学務担当者に(日本人学生とは)分け隔てのある対応をされた。(discrimination)
- 日本語がよくわからないから、ちょっと大変です。生活は不便です。
- 異文化や考え方の違いでちょっと困った。
- 日本語で会話する機会があまり多くないと思います。
- 日本語で話すことがむずかしいです。が、日本語を一生懸命勉強しています。すぐ大丈夫になります。
- 昨年出産して、子供の世話をしてもらうために両親を招待する件で保証人が必要となったが、教授、研究系では保証してくれなくて、留学生センターまで行ったが無理でした。結局、今、休学したままで面倒を見たいです。今後できればお願いしたいと思っていますので、大学のほうでご検討よろしくお願ひします。
- 奨学金のこと。
- 日本語の会話や理解。
- 研究室での対応が、外国人であるが故に(日本人と)同じでない、または隔離されているように感じる。

Q. 来日前にほしかったその他の情報

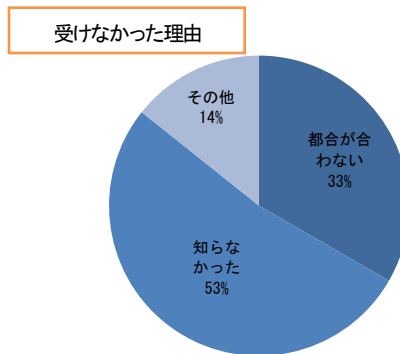
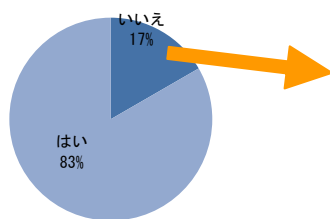
- 言語環境について。
- 自然災難賠償金制度、住宅保険賠償制度。
- コミュニケーションの手段としての言語について。(英語/日本語)
- 言葉の問題。

Q. 困っていることや、今後、困ったことができた時、相談できる人はいますか。

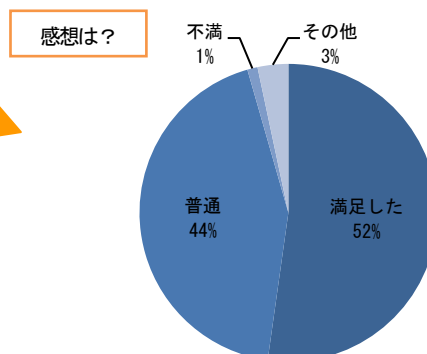
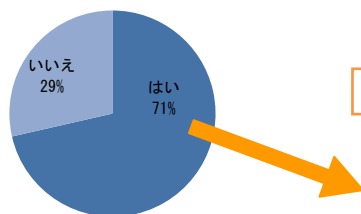
(複数回答あり)



Q. 今年の定期健康診断を受けましたか。

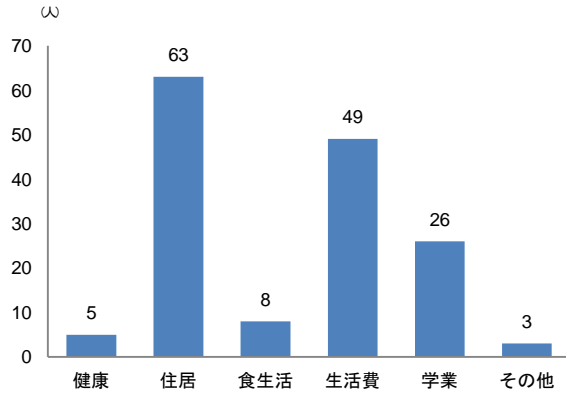


Q. 保健管理センターを利用したことがありますか。

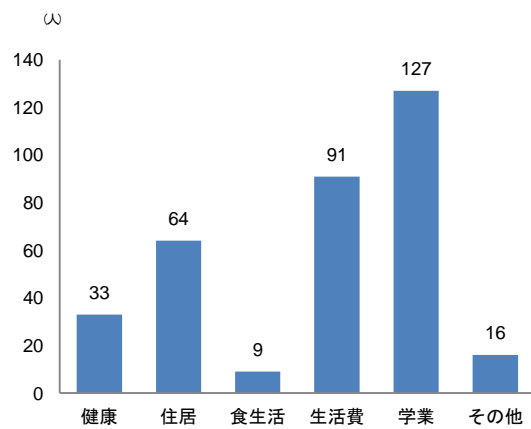


【 教員へ 】

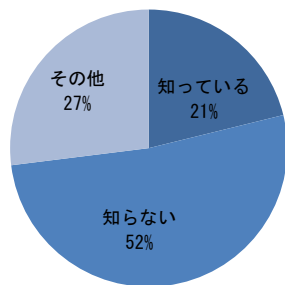
Q. 来日前に、留学生から問い合わせを受けたことがありますか。 (複数回答あり)



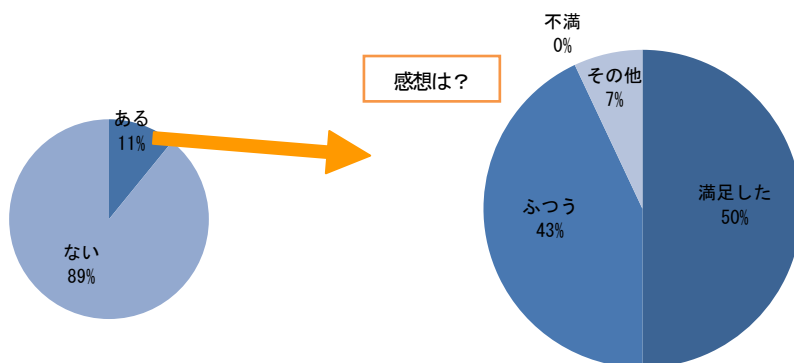
Q. 来日後、留学生から相談を受けた、又は相談を受けていることがありますか。(複数回答あり)



Q. 御担当の留学生が、今年、定期健康診断を受けたかどうか御存知ですか。



Q. 御担当の留学生に関することで保健管理センターを御利用になったことはありますか。



留学生へ <保健管理センターへ望むことや意見があれば書いてください>

- は、記入いただいた文そのままです。(英語は、日本語にさせていただきました。)
- ⇒ は、保健管理センターからのメッセージを記入させていただきました。

- 利用したことがないので、どうなのかあまり分かりません。
- サービス良いです。
⇒ (保センターより) 評価いただきありがとうございます。留学生さんに満足していただけたと思うと、私たちもうれしく、やりがいにつながります。
- とてもいいです。
⇒ (保センターより) 評価いただきありがとうございます。留学生さんに満足していただけたと思うと、私たちもうれしく、やりがいにつながります。
- 前は病気になった時に行ってましたが、最近受付の態度があまり親切じゃなくて行きたくなくなりました。
⇒ (保センターより) もし、親切でないなどということがあったとしたら、本当に申し訳ありません。ただ、お薬をお渡しできないと申し上げると、「親切じゃない」という人がいます。保健管理センターの薬は応急対応のものだけです。医療機関へ行くべき時は、そのように申し上げています。
- 薬をすぐ出してもらえないのは不満。
⇒ (保センターより) 日本の医療保険は、皆、平等に安価でいつでも、どこでも高品質の医療サービスが受けられます。私たち保健管理センターは、それを、最大限、効果的に利用してもらえるように、留学生の皆さんのお手伝いをするのが役目と思っています。医療機関を受診すべき時は、お薬はお出しせずに紹介することもあります。
- 医療機関を受診するのは不便なので、キャンパス内で医療サービスを受けられるようにしてほしい。
⇒ (保センターより) 日本の医療保険は、皆、平等に安価でいつでも、どこでも高品質の医療サービスが受けられます。キャンパス内の保健管理センターは、医療機関へ行くべきかどうか、どこがよいかなど、医療の前のお手伝いをしているのです。
- どこかの病院を紹介してくれるだけでなく、できれば直接みてもらいたいです。
⇒ (保センターより) 保健管理センターの受付は保健師・看護師が対応しています。専門職からみて、医療機関を受診した方がよい時は、すぐに指導いたしますので御理解ください。
- 日本の医療制度についてのパンフレット(英語)やオリエンテーションをしてほしい。
⇒ (保センターより) 日本の医療のしくみについても、留学生の皆さんに分かりやすく御説明する英語のパンフレットを作りたいと思います。連合大学院生さんにはオリエンテーションの時間などを利用して説明に伺っています。
- なぜ、保険料(国民健康保険)を支払わなくてはいけないのかわからない。
⇒ (保センターより) 日本の医療のしくみについても、留学生の皆さんに分かりやすく御説明する英語のパンフレットを作りたいと思います。連合大学院生さんにはオリエンテーションの時間などを利用して説明に伺っています。
- どのくらいの範囲、どのような病気までみていただけますか。自分は外国人として迷惑かけないようにしようとすると何もできない。
⇒ (保センターより) 学内や保健管理センターの支援内容や健康情報についてはホームページで公開していますが(英語も)、皆さんに気づいていただけるように努力したいと思います。いつでも、保健管理センターの窓口でおたずねください。
- 診察時間が短いです。

⇒ (保センターより) 看護師・保健師による応急手当や健康相談は 9:00～17:00 までです。保健管理センターの医師は教員でもあるので、教育や業務運営も担っています。診療時間が決められている点は御理解をいただきたいです。心の相談は、予約制で十分な時間がとれるよう工夫しています。

● **保健管理センターの情報をもってください。**

⇒ (保センターより) 学内や保健管理センターの支援内容や健康情報についてはホームページで英語と日本語で公開しています。パンフレットもお配りしています。さらに、情報をお届けするよう努力します。

● **健康・保健のゼミがあればすごいと思います。特に実験をよくやる人に注意事項を説明することです。**

⇒ (保センターより) 共通教育・特別講義・初年次セミナーなど担当しています。健康情報は保健管理センターニュース(英語も)などホームページで公開しています。

● **もっと詳しい情報を宣伝されたらありがたいです。**

⇒ (保センターより) 学内や保健管理センターの支援内容や健康情報についてはホームページ(英語も)で公開していますが、さらに努力したいと思います。

● **とてもいいと思います。ただ、自分の日本語を上達させなければならないです。**

⇒ (保センターより) 内科医と精神科医は英語で対応しております。遠慮なく、御利用ください。その他のスタッフも、皆さんとなるべくコミュニケーションがとれるように努力しています。保健管理センターニュースやホームページも英語のページをつくっております。また、個人メールでのお知らせは英語でお送りしています。お問い合わせのメールも英語でどうぞ。

● **今まで親切に診療していただき、心から感謝しております。**

⇒ (保センターより) 評価いただきありがとうございます。このような言葉をいただくと、私たちもうれしく、やりがいにつながります。

● **大学の健康診断のシステムはすばらしいと思う。**

⇒ (保センターより) ありがとうございます。早期発見・早期治療だけでなく、早期発見・早期予防もめざして、健康診断業務にとりこんでいます。

● **本当に保健管理センターに満足しています。**

⇒ (保センターより) 評価いただきありがとうございます。さらに満足していただけるよう、私たちも資質向上につとめます。

● **自分にとっては期待以上のお世話(支援)をしてくれました。**

⇒ (保センターより) 評価いただきありがとうございます。さらに精進していきます。

● **中国語の受付をつくってほしいです。**

⇒ (保センターより) 中国語を勉強しているスタッフもいます。私たちは、皆さんのお役に立ちたいと、いつも思っています。

● **保健管理センターの先生たちは親切です。ありがとうございます。**

⇒ (保センターより) 評価いただきありがとうございます。私たちもとてもうれしいです。また、やりがいにつながります。

● **英語のしゃべれる医師が(ひとりでなく)もっとたくさんいた方がよい。**

⇒ (保センターより) 英語で内科医と精神科医が対応しております。遠慮なく、御利用ください。保健管理センターニュースやホームページもすべて英語と日本語と両方のページをつくっております。また、個人メールでのお知

らせは英語でお送りしています。お問い合わせのメールも英語でどうぞ。

- **英語で診療のできる医師が(ひとりでなく)もっとたくさんいてほしい。日本語で健康上の相談をするのはとても難しいので。**
 - ⇒ (保センターより) 内科医と精神科医が英語で対応しています。精神科医は予約制でじっくり時間をかけてお話しします。遠慮なく、御利用ください。メールでのお知らせは英語でもお送りしています。お問い合わせのメールも英語でどうぞ。
- **フィットネスセンター(などの学内施設)を新入生にガイダンスしてほしい。**
 - ⇒ (保センターより) 保健管理センターの案内を新入生全員にガイダンスしています。この時に、学内施設も少しお話ししたいと思います。
- **保健管理センターのサービスに満足です。滞在をより安楽にしてくれてありがとうございます。**
 - ⇒ (保センターより) 評価いただきありがとうございます。私たちもうれしく、やりがいにつながります。
- **英語を話せるスタッフが必要です**
 - ⇒ (保センターより) 英語で内科医と精神科医が対応しております。遠慮なく、御利用ください。その他のスタッフも、皆さんとなるべくコミュニケーションがとれるように努力しています。お問い合わせのメールも英語でどうぞ。
- **医師に夕方まで対応してほしい。**
 - ⇒ (保センターより) 看護師と保健師は 9:00～17:00 までいつでも対応できる体制を整えています。保健管理センターの医師は教員でもあるので、教育や業務運営も担っています。御理解をいただきたいです。
- **定期健康診断時にアラニトランスアミナーゼ(ALT)検査をしてほしい。**
 - ⇒ (保センターより) 新入生と編入生の方は採血検査があり、その中で ALT を調べています。また、特別健康診断の対象者の中には使用薬剤によって測定項目に ALT がはいつています。

教員の先生へ

<留学生の健康管理に関し保健管理センターへ望むこと、御意見などがありましたらお教えてください>

● は、記入いただいた文そのままです。

⇒ は、保健管理センターからのメッセージを記入させていただきました。

- 感染症、とくにTB(結核)チェック、麻疹、風疹、おたふく、水痘などの抗体保有状況チェックとワクチン接種。

⇒ (保センターより) 全学部の御理解と御協力のもと、学部新入生全員に麻疹、風疹、おたふく、水痘の抗体価、採血検査を実施しています。結果は Web(岐阜大学健康管理システム) 上で全員に通知しています。抗体価が十分でない学生さんには、追加接種を医療機関でうけるように勧奨しています。教育学部、医学部など、卒業までに全員が十分な抗体価を獲得する必要がある学部では、学部内で十分な確認をしていただいております。

結核に関しては、結核予防法に基づいて、新入生全員に胸部 X 線写真検査をうけていただいております。さらに、本学は毎年の定期健康診断で胸部 X 線写真検査を実施しています。尚、ツベルクリン反応検査は、結核の早期発見につながる検査ではないため本学では実施していません。

- 入学時のガイダンスの実施(特に病院案内や対応策の具体的なものを示す)と半期ごとに相談デーがあると良いと思います。

⇒ (保センターより) 入学式のオリエンテーション、共通教養教育(健康科学、保健体育系実技の第 1 回め特別講義、初年次セミナーなど)、連合大学院のガイダンスなどの機会に、保健管理センターならびに医療制度についての説明をしています。今後とも、学部、研究科から機会の提供をいただければ、喜んで伺いたいと考えています。

大学の近隣の医療機関マップ(日本語と英語)を配布し、ホームページ上でも公開しています。来日後すぐに受診した留学生健康診断の結果は保健管理センターの医師(学校医)、保健師から全員に面接をして、直接結果の説明をしています。

このような機会を最大限に利用して、いつでも気軽に留学生が相談に訪れることができる雰囲気になりたいと思っています。

- 留学生のサポートが充実するよう願っています。

⇒ (保センターより) 応援をありがとうございます。

- 心身に問題をかかえる留学生は帰国させて治療させるべきだと考えます。

⇒ (保センターより) 保健管理センターの精神科医ならびに臨床心理士は、日本人の学生さんと同じように留学生さんの支援をしています。外国生活という環境で留学生さん自身の御苦労も多いと思いますが、まわりの方の支援や適切な治療により回復される方も少なくありません。万一、症状によっては帰国することが御本人のために良いと判断される場合は担当の先生方と協働しながら帰国を支援することもあります。

⇒ (保センターより) 万一、日本では回復がむずかしい時は、故郷に帰って治療に専念していただく場合もあります。

- 英語の HP など充実されては。

⇒ (保センターより) 従前より、英語の案内文、メール文、ニュースを作成し、ホームページ上にアップしてきましたが、日本語のトップページからはさがしにくいという状況がありました。このたび、保健管理センターのホームページを日本語ページと英語ページに改修しました。かなり見やすくなったと思います。御指導、御意見をいただければありがたいです。

- どんなことが問題になっているかをまとめて、教員に配布して欲しい。少しは対処を考えて日常の中で協力できる

かもしれない。(日本人学生に関しても同様)

⇒ (保センターより) 特に深刻な問題があるという認識ではありません。そこで、今回のようなアンケートを実施した次第です。留学生からの回答もまとめましたので、お目通しください。

- コミュニケーションをしっかり取ることが重要、留学生に限らず、コミュニケーションをとるのは難しいですね。

⇒ (保センターより) 御指摘のように、保健管理センターでも学生さんとのコミュニケーションの重要性を痛感しています。先生方や職員の方のスキルアップにつながるよう FD を企画したり、学部の FD のお手伝いもしています。

- 日本の食事に慣れていないので、店で購入する場合に違うと思います。「栄養バランスガイド」を配布されると良いと思います。

⇒ (保センターより) 栄養に関するパンフレットやフードモデルを保健管理センターに用意しております。健診後の個人指導に用いております。「健康ナビ」(学生向けの健康啓発冊子)の英語版をつくり、留学生全員に配布する予定にしています。

- 健康診断は必ず受けさせるようにして下さい。

⇒ (保センターより) 健康診断は予約制(Web でもできますし、保健管理センターでもできます)にして忘れないように、また、混雑も避けるようにしています。教員の先生方におかれましても、健康診断を受診するよう、日頃の御指導をいただければ幸いです。

- 定期的に診察してはどうですか。

⇒ (保センターより) 定期健康診断および特別健康診断で全員に診察をしています。留学生の新入生には、全員に個人面接をして定期健康診断の結果説明をしています。この時に、健康上でお困りのことがあれば伺っています。

- 留学生の支援をするボランティア(学外も含む)を募集したら良いと思います。地域ぐるみでないと難しいと思います。

⇒ (保センターより) 留学生センター、留学生支援室等の尽力により、日本人学生が半年間ボランティアで支援する“チューター学生”制度はあるそうです。御指摘のように学外にも要請するボランティアリスト(通訳支援、病院受診支援など)が作成されると好ましいと思います。県、市の行政にもこのような動きがありますので、情報が共有されることが望まれるところです。

- 無料での健診を。

⇒ (保センターより) 健康診断はすべて学内予算で運営されていますので、受診学生にとっては無料です。たとえば、新入生の健康診断は学校安全衛生法の必須項目に加えて、心電図、採血検査(肝機能、脂質、尿酸、血糖、HbA1c、感染症4種抗体測定(麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎))を実施しています。

- 直接教員に健康状態がわかるような伝達方式を考案していただきたいと思います。

⇒ (保センターより) 就学において、配慮をいただきたい学生の健康状態については、本人に確認した後、教員の先生方へお知らせし、お願いしております。もちろん、緊急時、生命に危険が及ぶと推察されるような場合は適切に対応します。

特別健康診断の結果は、作業環境管理に直結しますので部局にお知らせしています。特に、安全衛生管理改善が必要と思われる場合には、管理者の先生方へもお知らせしております。

- 時世柄、放射能被曝について検査することも必要ではないか？

⇒ (保センターより) このたびの我が国における放射線汚染のレベルは、学校現場で被曝検診のようなものを実施

する必要があるとは考えておりません。心配ない現状であることも含め、正しい情報を放射線に関しても提供したいと思います。

- 友人のドイツ人が花粉症対策の注射を買うのに難儀していた。その対応も検討して頂きたいです。
⇒（保センターより）アレルギー治療については、医療機関で国民健康保険を使って受けていただけるはずですが、通常、海外の民間医療保険を使用になる場合は、日本の医療機関で全額の支払いをすませ、領収書等の書類をそろえて御自身で手続きをしていただくことになります。
- 特になし、というより、実際、定期健診とかを受けているのかさえ知りません。
- 大学近隣の医院で留学生の診察をした際、言葉(会話)に困りました。留学生向けの医院紹介(英語他、会話のできる(連携した)医院・病院)があればと思います。
⇒（保センターより）留学生が医療機関を受診する時は、なるべく紹介状をもたせるようにしています。また、日本人や日本語の堪能な友人に付き添ってもらうように話しています。(我が国でもメディカル通訳のできるボランティアサービスが整備されつつあるときいていますが。)
- 他の学生と同等の扱いでよいと思う。
⇒（保センターより）留学生に対する支援も日本人の支援も、基本的な姿勢や予算に差はありません。健康診断も応急処置も健康相談も日本人と同様にしています。そして、学生の健康教育に資することを方向性としています。
- 多数のチェック項目でアンケート調査を本人に行なって、留学生のおかれている状況を詳細に把握するようにはどうでしょうか。
⇒（保センターより）今回、教員の先生方だけでなく、留学生の皆さんにもアンケートをとりました。留学生さんが必要としている支援のニーズを調べました。ここに御報告すると同時に、私たちの業務に役立ててまいります。
- 親切は大切ですが、日本の健康保険のルールを教えて従うよう指導するといいたいです。(たまたま、会計(大学病院)を無視する人がいました。)
⇒（保センターより）御指摘のように日本の医療制度について留学生に説明する必要性を痛感しています。留学生の多い連合大学院では、入学時オリエンテーション時に保健管理センター医師が説明しています。簡単な英語のパンフレットも作成中です。
- 急な事故・病気のときに対応していただければ。
⇒（保センターより）学内でのケガ、体調不良には、いつでも対応しております。必要に応じて医療機関へ搬送、紹介など対応いたします。
- 留学生の定期健康診断の日程ですが、水曜日の午後など、授業がない時間帯にできないでしょうか、せめて、午後などにしてもらえると助かります。
⇒（保センターより）健康診断の日程は、各学部・研究科の学務担当者に相談して決めております。在学生の日程はWeb予約制ですから学生の都合にあうよう配慮しています。どうしても日程が合わない方のために、予備日も設定しています。
- 学生食堂にハラル食コーナーが必要になると思います。
⇒（保センターより）是非、生協へもお伝えください。生協の食堂のメニューについては、野菜メニューを増やしていただきたい、油料理にかたよらないようにしてほしい、など保健管理センターからもお願いをしています。アレルギー食やベジタリアンやハラル食についての配慮についてもお願いをしていきたいと思っています。
- 私が留学生を担当したのは10年以上前で、その時に留学生にも健康診断があったのか、全く知らなかった。この10月から、また留学生を受け入れたので、受けさせるようにしたいと思います。教員留学生も一般留学生と同じよ

うに定期健康診断があるのですね。

⇒（保センターより）外国人研究者（学生の身分でない留学中の方）の方は、職員定期健康診断の対象者になります。指導管理のお立場から、教員の先生には御指導をお願いいたします。

- 指導経験はありませんが、聞くところでは言葉の壁、文化や生活習慣の違いに戸惑い悩む方が多いと思います。部署は分かりませんが、リラックスして悩みを聞いてあげられる体制があればと思います。

⇒（保センターより）慣れない日本生活にストレスをかかえている留学生が多いことを、私たち保健管理センタースタッフも感じています。内科医と精神科医は英語で健康相談に対応しています。留学生センターやキャンパスライフヘルパーも留学生支援に尽力していらっしゃいます。

- 保健管理センターは重要な役となります。よろしくお願いします。

⇒（保センターより）御指摘のように、学部や研究科とは独立した部局に医療専門職がいることは重要と自覚しています。

- 市販薬しか置いていないようだが、このような状況では、留学生のみならず、日本人学生にとっても不幸だと感じる。

⇒（保センターより）簡単な外用薬、風邪薬、抗生剤などを医師が処方して応急対応しております（市販薬ではありません）。すべての費用は大学の運営費で対応しております。検査や継続的な治療と経過観察が必要な場合は医療機関へ搬送、または紹介しております。これは、多くの国立大学と同様です。

- 留学生が病院にかかる時の負担の軽減措置があるのかないのか教えてほしい。（留学生にも、教員にも）

⇒（保センターより）学生および職員の健康診断の事後措置として保健管理センターの紹介状をもって岐阜大学附属病院を受診する場合は、再診扱いになります。この場合は、初診料加算は発生しません。

- 健康を害しているとまでは言えないが、様々な理由で情緒不安定になっている留学生がかなりいると思います。予防的な意味でも、彼らへの対応も考えていただければ幸いです。

⇒（保センターより）留学生の新入生健康診断の結果は全員にお会いして説明しています。その時に、日本の生活で困っている事などないか確認しています。留学生センターでも、留学生相談・支援の役割を担い、尽力されています。

- 指導教員は本人から相談や素人から見てもわかる程の問題や異常がない限り、学生の健康管理まで目が届かないと思いますので、センターに学生（必要なら教員）へのご指導、アドバイス等、よろしくお願いしたいと思います。

⇒（保センターより）御本人の了承を得て、指導教員の先生や学務担当の職員に当センターから当該学生の支援をお願いする事もあります。どうぞよろしくお願いいたします。

- 気軽に保健管理センターに行けるといいと思います。

⇒（保センターより）そういう保健管理センターをめざしています。

- 健康診断の日程が確実に伝わるよう配慮願いたい。

⇒（保センターより）学生の個人メールに一斉配信を数回しています。日本語と英語の両方です。その他、Aims-Gifu、ホームページ、プラズマディスプレイ、掲示板、学生会館の垂れ幕などで周知を工夫しています。これだけ手をつくしても気がつかない学生はいます。先生方にも日程をお知らせしますので、ひと言“健康診断は受けたか”と学生に声をかけていただけるとありがたいです。

- もし、留学生を集めて、保健管理センターの利用（役割）を伝えるガイダンスがないのであれば、入学時にその時間をつくられるよう希望する。

⇒（保センターより）入学式の直後に学部新入生に保健管理センターからガイダンスをしています。連合農学、獣

医、創薬の各研究科のガイダンスでは、十分な時間をとっていただき、日本語と英語で案内をしています。また、保健管理センターの利用案内(パンフレット)を全員に配布しています。

- **経済難から、健康保険料を納めていないケースがあると聞きました。このようなことは、保健管理センターで把握可能でしょうか。(又は、把握必要があるか?)**

⇒ (保センターより) 現在は留学生支援課や留学生センターで十分な指導をいただいているので国民健康保険に加入しないような留学生はいないと思います。(保健管理センターで把握はできませんが、医療機関へ紹介する時は本人に確認しています。) “ドラッグストアで購入する薬より、はるかに良質の薬を、はるかに安価で処方してもらえる” という国民皆保険制度のしくみを説明すると、多くの留学生は理解してもらえるようです。国民健康保険制度のない国からの留学生も少なくなく、説明して理解いただくことは、留学生に関わるいろいろな人がすべきだと思います。

- **心のケアについては知りませんでした。留学生には様々なケアを提供していただけると嬉しく思います。**

⇒ (保センターより) “体調がすぐれない” と来訪する留学生の中には、慣れない外国生活でのストレスを訴える者も少なくありません。私どもは、なるべくこのような心の疲れをほぐすよう心がけています。しかし、心身症など、明らかな症状が出て、治療の必要な段階の者は医療機関へ紹介しています。不眠や抑うつについての医療相談も行なっております。ご利用下さい。

- **学生、院生として所属している以上、普通の意味で健康診断は受けているものと思っていました。特に「留学生の」という形でこのようなアンケートが必要なのはなぜか、もう少し説明があればうれしいです。(今、留学生が一人おられますので)**

⇒ (保センターより) 御指摘のように、学生の健康管理、健康支援の内容に留学生も日本人もちがいはありません。同じ日本人でも、入学後の5月病の時期、就職活動の時期、卒業論文の時期、友人に不幸があった時など、より支援に気配りが必要な時期や対象があります。私どもは学生の支援を画一的に全員に行なうルーチンワークとは考えておりません。もちろん、全員を対象とした健康診断や啓発活動も行なっていますが、個人を対象とした健康指導、健康相談で学生を支援しています。このような個別支援では、その学生の背景を私どもが十分に理解していることが大事と考えています。私どもの経験では、留学生さんたちは、次のような点から特に配慮が必要と考えていますので、教員のお立場からの御示唆をいただきたく、今回のアンケートを実施しました。

- ▲ 生来、健康診断を受けた事がない。健康診断や疾病予防という概念に乏しい。
- ▲ 慣れない外国生活で、様々なストレスをかかえている場合が少なくない。
- ▲ 体調が悪くても病院へ気軽に行こうとしない。(本国と同じように医療費が高価なのではないかと心配している) などです。

- **留学生の健康管理について実態や現状がわかりませんのでアンケートに回答ができません。**

⇒ (保センターより) 留学生の方々健康状態の特徴については、国立大学保健管理施設協議会で調査された結果が報告されています。

- ① 日本人学生に比べると、胸部X線写真で、「結核または、そのうたがい」の所見の頻度が何十倍も高い。
- ② 来日後(入学後)に体重が増える(増えてしまう)留学生が多い。
- ③ 生来、健康診断を定期的に受けている人が少ないので、何らかの指摘を受ける人が多い。また、その内容も様々で、時に深刻な内容である事もある。
- ④ 日本の医療制度は、フリーアクセスであるにもかかわらず、気軽に医療機関を受診することをためらう傾向にある人もいる。

⑤ 逆に、日本滞在中に医療サービスを最大限にうけようと無理をするぐらいの人もいる。滞在中に精密検査や手術をうけておこうと考えたり、妊娠・出産もできればしておこうと考える人もいらっしゃる。

したがって、留学生の健康管理に対しては、その特徴を理解した上での注意が必要なのではないかと考えています。

- **現状、満足しております。**

⇒ (保センターより) 御理解いただき、どうもありがとうございます。

- **大変なお仕事、お疲れ様です。留学生は病気になった時にも様々な理由で病院に行くまでの“障壁”があるのではないかと推測しています。まずは、気軽に健康相談のできる窓口を用意(広報を含む)していただければ幸いです。**

⇒ (保センターより) 御指摘のように、日本の病院ではどのような医療サービスを受けることができるかを知らないと、適切なタイミングで病院を受診できていない(できなかった)という留学生がいるようです。情報の提供につとめたいと思っています。また、先生方からも様々な配慮をいただければありがたいです。

- **気軽に相談できる体制をつくる。**

⇒ (保センターより) 英語で対応も含め、最大限に心がけてまいります。先生方からも、“気軽に相談できる”ことを学生に周知していただけるとありがたいです。

- **英語以外の言葉でも対応できるようにする。**

⇒ (保センターより) 一部のスタッフは中国語も勉強しています。よく使う言葉については、カードを作り、さし示すことでコミュニケーションがはかれるように工夫するつもりです。

- **留学生の健康管理で困った時にどこに連絡するか明確だとありがたいです。**

⇒ (保センターより) 心身の健康に関する事であれば、私どもができる限り対応し、必要であれば医療機関へつなげてまいります。保健管理センター受付は < 内線 2174 > です。生活に関する事や学業に関する事は様々な方々の力添えが留学生には必要と思います。

- **言葉の問題、日本での慣れない暮らしなど、保健管理センターの先生方の御苦労がしのばれます。ありがとうございます。**

⇒ (保センターより) 御理解をいただき、誠にありがとうございます。

- **「センターに来館しないとNG」なのは、おかしい。**

⇒ (保センターより) 入学手続き書類の中で、健康診断の御案内と問診をさせていただいております(英語と日本語で)。そして、健康診断の結果を保健管理センターで面接の上、説明しています(英語で)。これを機会に多くの留学生さんたちは保健管理センターを知っていただくことができ、その後、気軽に来館して下さる方が多いと感じています。いずれにしても、「センターに来館しないとNG」ということはありません。友人が心配して来館したり、家族や指導教員から相談をいただいたりという事例は多くあり、当センターとして対応させていただいております。当センターも含め、留学生をとりまく多くの関係者が連携をとりながら支援する事が有効かつ重要と考えています。

- **就学困難ならば、そのようにはっきりと言ってほしい。(判断も)**

⇒ (保センターより) (留学生に限ったことではありませんが)心身の不調に対して治療に専念する必要がある場合などは、就学の制限や休学などの措置について医療的見地からおすすめることも少なくありません。このようなケースでは、御本人と家族、指導教員、教務担当の先生方などと情報を共有し、学生にとって最善の方向性を示していくことが本人のためと考えます。尚、就学が可能かどうかの判断は、医療機関の主治医の先生の情報

と指示に基づくことが多いです。保健管理センターが単独で判断するものではありません。

- **健康診断案内、問診や説明・結果などは英語でお願いできますでしょうか。**
⇒（保センターより）健康診断案内(Eメールも含む)、問診、結果表示(Web上)、結果説明は、すべて日本語版と英語版の両方を用意し、配信・配布しております。もし、日本語しか受け取っていない留学生がいらっしゃいましたら、保健管理センターまで御一報ください。英語版をお届けします。
- **丁寧に対応していただいていると言っております。感謝しております。**
⇒（保センターより）このようなお言葉をいただくと、我々もやりがいを感じます。ありがとうございます。
- **以前、留学生が健康診断で「要注意」を受けた。その後、再検査で何もなかった。このようなチェックがあるのはありがたい。**
⇒（保センターより）体重などのわずかな変化(要注意)は生活習慣に少し気をつけていただだけで改善することも少なくありません。このような、健康増進のための早期からの健康教育指導にも力を入れています。
- **日本の医療制度に対する知識を教えるようにした方がよいのではないか。**
⇒（保センターより）御指摘の通りと考えています。連合創薬医療情報、連合獣医、連合農学の各研究科ではガイダンスの時間で保健管理センターの案内とともに、日本の医療制度の説明をしています。英語のパンフレットも作成していきたいと思っています。
- **メールでも何でも良いのでコミュニケーションをとり、心の病にならないようにする。**
⇒（保センターより）保健管理センターからは、時期にあわせ、健康情報や啓発記事を発信しています。学生に個別メールで発信しています。指導担当の先生におかれましては、学生が大学メールを定期的にチェックしているか、是非、確認いただきたいです。また、御指摘のように学生に対する言葉がけなど、コミュニケーションの力が学生の変化をとらえる良いきっかけになります。教員の先生方には身近な立場から、学生が助けを求めているサインを見逃さないようにしていただけるとありがたいです。
- **日本語、英語だけでなく、ほかの言語で医師に相談できるよう、近隣の医療機関の言語の対応状況などを把握してはどうか。**
⇒（保センターより）我が国では、医療通訳サービスの整備が基幹病院(岐大病院含む)や行政で緒についたところです。これらのサービスの利用案内情報を保健管理センターでも集めていく所存です。現在は、同じ母国語の友人で、日本語に堪能な者に受診時の同行を自らのむ学生もいます。留学生同士のコミュニティーをつくって助け合ってほしいと思います。また、医療機関を受診する際、学生が所属する教室のスタッフの方や先輩学生が付き添ってくださっている事も少なくないようです。“もし、自分が外国で医療機関を受診したら”と考えていただければ、留学生がいかにか心細い思いをしているか想像いただけるとと思います。是非、学内すべての皆様の助け合いの気持ちに期待します。尚、本学では留学生に限らず、本学の学生が学内で急な体調不良となり、すぐに医療機関を受診する必要がある場合は、各学部の学務職員が医療機関まで付き添い、迎えに来た家族に確実にひきつぐようにしています。
- **通常、メンターとして学生が相談相手になるが、あまり相手できないと精神的に不安定になり疎外感も強い。ここのフォローをできるようメンターをトレーニングする機会があつてよいのではないか。**
⇒（保センターより）御指摘のように、学生をとりまく教員がメンターとしての資質を向上させることはとても重要です。保健管理センターと学生支援課が共催で、教職員対象の研修会を毎年2回、開催しています。学生支援をとりまく様々なテーマをとりあげています。前回は、「発達障害を理解する」というテーマでした。キャンパスヘルパーやハラスメント相談員の教職員の方のニーズを意識してテーマを決めていますが、全教職員にオープンで開

催しています。さらなる御要望や御示唆を学生支援課へお寄せください。留学生センターにも要望をお伝えしたいと思います。

- **保健管理センターで健康管理、相談などを行ってくれると助かると思います。**
⇒（保センターより）健康診断の実施、結果説明を留学生の新入生全員にお会いして行っています。この時に健康指導もします。いつでも健康相談に対応できる事を御案内しています。生活面や学業に関する相談は学部や留学生支援担当からの取り組みがすすんでいらっしゃると思います。
- **私費留学生は経済的な問題で、なかなか医者を受診をしないので、ケアが必要である。**
⇒（保センターより）御指摘のように、保健管理センターの応急処置や相談は無料のため、私費留学生のアクセス率が高いと感じています。少しでも役に立つようにしたいと思います。しかし、医療機関を受診することが本当に必要な時は、遅滞のないよう、適切な指導をしております。
- **女子留学生なので、あまり体調のことを聞くのは失礼かなと、つい遠慮してしまいます。どのように対応したら（接したら）良いのか FD か HP など示していただくとありがたいと思います。**
⇒（保センターより）「FD の実施」という、適切な御助言をありがとうございます。学生相談担当教職員むけの FD は、2 回/年、公開講演会の形で開催しています。内容に、留学生支援のことにも触れるようにしたいと思います。
- **留学生同士のコミュニケーションに期待したいと思うのですが。**
⇒（保センターより）御指摘のように、留学生どうしのコミュニティーの形成は大事なことと考えます。留学生支援のひとつとして「〇〇人会」の運営支援に大学が積極的になることを当センターとしても願っています。
- **留学してきている若者は、ストレスも多く、悩みも多いので、体調や健康については是非、保健管理センターが良き相談相手になっていただきたいと思います。**
⇒（保センターより）御指摘のように、外国で生活する、外国で学業を修めることの大変さは、相当なストレスのようです。体調不良時などの対応支援は、もちろん当センターで積極的にさせていただきます。しかし、ストレスを軽減させるような日常生活や勉学上の支援は、学部、学科でも御検討いただけると幸いです。
- **通訳の手当て。（何語でも、臨時対応も可能な状態を維持してほしい）**
⇒（保センターより）英語については、当センターの内科医・精神科医で対応可能ですが、御指摘のように、母国語の通訳支援が常に可能であれば、留学生のみならず、先生方も御安心かと推察します。特に、医学用語を必要とする会話ではなおさらです。大学の中で、“通訳支援に協力してもよい”というボランティアを募り、学内でオープンにするという方向性が考えられると思います。しかし、学内だけのボランティアでは限界があると思われる。県・市などの行政でも通訳ボランティアのリスト化をすすめていますので、行政との協働ができるよう、大学としても工夫がすすむことを期待したいです。
- **留学生本人に加え、家族の健康が課題。また、妊娠・出産時にいろいろな問題が起きた。これらに対する指導や対応は手にあまるので協力がほしい。**
⇒（保センターより）御指摘のように、一家で来日する留学生や外国人研究者は少なくありません。留学生が保健管理センターへ健康相談に訪れる内容の中には、家族の健康に関する事もあります。その際は、当センターでできる限りのアドバイスをしています。時には、保健所などの行政サービスを紹介することもあります。時には、留学生どうしの安易な情報をうのみにしていることもありますので、先生方の適切なアドバイス(日本人ならあたりまえのことでも)が、重要な場面もあります。
- **一般的に住居、生活習慣(文化的背景含め)などで悩むケースが多いと聞く。そういう相談に気軽に乗ってくれるチューター的な役割の人の配置が必要かも。**

- ⇒ (保センターより) 留学生センターでは、半年間、日本人学生がチューターとなるチューター制度を進めていらっしゃいます。留学生にも、日本人学生にも好評なようです。しかし、日本人学生も学生ですので社会的には経験の浅い分野もたくさんありますので、御指摘のように、大学生に留学生の社会的支援をする職員(英語のコミュニケーションができるソーシャルワーカーなど)の配置が望まれるところです。留学生センターに要望をお伝えしたいと思います。
- **体調で不安なことがあれば相談に乗ってあげて下さい。**
⇒ (保センターより) はい、たくさんの留学生が保健管理センターを利用しています。
 - **現在、大学の研究、教育、管理運営に忙殺されており、留学生の健康にまで頭を使う余裕はありません。**
⇒ (保センターより) 大学業務の多忙さは近年、益々深刻になっているようです。教職員の健康管理の立場から、私どもも心配し、お力添えできるよう頑張る所存です。しかし、学生の健康状態に気をつけていただくことは、学校保健安全法で定められた、重要な教育業務のひとつです。学生が万一、命にかかわるような体調であったり、感染性の疾病を患っていた場合、大学の安全危機管理に関わる問題だからです。“Are you okay?” “How have you been?” と一声かけていただけるとありがたいです。
 - **日本人と差別せずに健康診断をしてあげて下さい。**
⇒ (保センターより) 日本人と全く区別なく健康診断をしています。英語での案内文、結果票、結果説明文の配信をしています。来日後、はじめての健康診断をうけた留学生さんには、全員、保健管理センターまで来ていただいて結果票をお渡しし、説明しています。全く差別はありません。
 - **教職員の多忙さ、言葉の壁、指導する側とされる側との人間関係、プライバシーの問題などで、教職員と学生(留学生を含む)との間に健康管理について十分な相談ができていないかもしれません。専門的かつ客観的に支援が可能な保健管理センターの役割は貴重であると考えます。**
⇒ (保センターより) 御指摘をありがとうございます。私どもの役割を自覚して精進してまいります。“教職員に気軽に相談する”ような文化ではない留学生もいるようです。あるいは、“日本では先生に気軽に接してはいけない”と思っている場合もあるようです。そのような時にも、私どもが何かのお役に立てればと願っております。
 - **どのような現状にあるのか、可能な範囲で情報開示して下さい。**
⇒ (保センターより) 健康診断、健康教育の実施状況や、本学学生の健康状態の解析をHPで公表しております。御覧ください。留学生の健康に注目した解析結果も、今後、漸次、公開してまいります。
 - **留学生センターとの関係を密にして、授業の際にも注意をして見守る必要があるのではないかと思います。**
⇒ (保センターより) 御指摘のように、留学生センター、学部、そして保健管理センターが、遠慮なく情報を共有しあえる関係を維持する必要があると考えます。現在も学部の先生方の御協力で支援が可能になっている学生も少なくありません。
 - **留学生本人よりも、家族の問題の方が多く感じています。出産、子供の教育などです。**
⇒ (保センターより) 家族と一緒に来日される方が少なくありません。日本の恵まれた医療環境、出産費用、妊婦・乳幼児検診、社会保障(ワクチン接種)のもとでは、出産を希望する場合はとても多いです。保健管理センターとしてもできる限りお力になれるよう、保健所などの支援窓口を紹介しています。メンターの先生方は親身な手助けをいらっしゃり多く、尊敬申し上げます。
 - **重要だと思われる相談については、関係する教員にも連絡を早めにしてほしい。(今でもそうしているのかもしれませんが)**
⇒ (保センターより) 学業や学生生活に直結する相談は、即、御本人の了承を得て、先生方に連絡しております。

留学生に限らず、どんな学生もです。先生方と学生さんとお話をさせていただく時に、我々が同席することも少なくありません。

• 留学生に特有の傾向、徴候があれば、学内に展開してほしい。

⇒ (保センターより) 前の質問にお答えしたように、次のような特徴があるようです。

- ① 日本人学生に比べると、胸部X線写真で、「結核または、そのうたがい」の所見の頻度が何十倍も高い。
- ② 来日後(入学後)に体重が増える(増えてしまう)留学生が多い。
- ③ 生来、健康診断を定期的にかけている人が少ないので、何らかの指摘を受ける人が多い。また、その内容も様々で、時に深刻な内容である事もある。
- ④ 日本の医療制度は、フリーアクセスであるにもかかわらず、気軽に医療機関を受診することをためらう傾向にある人もいる。
- ⑤ 逆に、日本滞在中に医療サービスを最大限にうけようと無理をするぐらいの人もいる。滞在中に精密検査や手術をうけておこうと考えたり、妊娠・出産もできればしておこうと考える人もいるらしい。

• 伝染病の病気について、予防策の徹底と調査。(母国・日本)

⇒ (保センターより) 学部と大学院の新入生全員に下記の検査をしています。

- ▲ 結核予防法による全員の胸部X線写真検査。
- ▲ 麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘の抗体測定の採血検査を全員に行ない、十分な抵抗力がないと推察される学生には追加予防接種をうけるよう指導しています。

また、毎年の定期健康診断では全員に下記を実施しています。

- ▲ 現在、治療中(感染症を含む)の病気があるかについて問診。
- ▲ 咳や痰など感染症を疑う症状があるかについて問診。
- ▲ 医師による診察で、頸部のリンパ節の腫れがないか、呼吸音に異常がないか。

全員に確認しています。したがって、先生方におかれましては、健康診断を必ず受けるよう指導いただければ幸いです。尚、健康診断をうける機会のない短期滞在者(半年未満)については、健康診断書を来日時に提出していただいています。英文の書式が各学部の学務係に用意してあります。その他、(留学生に限らず)全学生向けに、海外渡航時に準備すべき予防接種や感染症予防の知識を「健康ナビーキャンパスライフの健康管理」で配布しています。健康科学の特別講義(学部生向け)や新入生ガイダンス(大学院生向け)でもお話をしています。HP上でも情報を公開していきたいと考えています。また、ワクチン外来のある医療機関を紹介しています。

• 最低限、英語のできるスタッフが常駐できればよいのでは。

⇒ (保センターより) 常勤スタッフの多くは英語で対応しています。しかし、医学用語や心の悩みなどデリケートな内容は、英語に堪能な医師が対応するようにしています。日英の対訳パンフレットやカードなどのコミュニケーションツールを用意し、少しでも意思疎通がうまくいくように工夫を続けています。

• 肝炎、肺結核、HIVについての管理は十分でしょうか？

⇒ (保センターより)

肝炎について： 新入生全員に肝機能(GOT,GPT)検査をしています。異常値のある学生には医療機関でB型、C型肝炎の検査をうけるよう紹介状を渡しています。

肺結核について： 結核予防法に基づいて、新入生・編入生全員に胸部X線写真検査を実施しています。また、毎年の定期健康診断で、咳・痰・微熱などの自覚症状がないか、問診で確認をしています。尚、健康診断を受けることのできない短期在籍者や滞在者には、胸部X線写真所見を含んだ健康診断書を提出してもらっています。

HIV について : AIDS/HIV についてのパンフレット(国立大学保健管理施設協議会作成)を全新生に配布し、ガイダンスや健康教育の特別講義の際に啓発教育をしています。ただし、HIV 抗体を測定するような対応はしていません。

- 日本の社会全体が内向きで、留学生にはすんなり溶け込みにくい。その本質的なところを変えないと。保健管理センターのできることは限られていると思う。
⇒ (保センターより) 御指摘のように、組織文化が留学生にとって溶け込みやすいと健康的にも良い効果をもたらすと思います。先生方の御助言や御示唆も大事かと思えます。どうぞよろしくお願い申し上げます。
- パワーハラスメント、アカデミックハラスメントを受けている留学生を知っています。しっかり支援等が必要だと思います。
⇒ (保センターより) ハラスメントについては、学内の相談窓口が機能することを願います。学内のハラスメント相談窓口をご利用下さい。しかし、「ハラスメント相談かどうかわからない時」や「ハラスメントのストレスによる心身の相談」などについては、保健管理センターの医療専門職が支援しております。
- 留学生同士の交流の場などをつくっておくのはよいと思います。岐大周辺にできたイスラムのモスクは感動しました。
⇒ (保センターより) 御指摘のように、留学生同士や同国人同士が情報交換したり、助け合ったりする場や機会が育っていくと良いと願っています。
- 以前別の大学に所属していた時、留学生の人たちのメンタルヘルスの話題を多く聞きました。文化的背景や考え方も大きく違いますし、疾患観も異なるようで対応が非常に難しいと感じました。言葉の問題ももちろん大きな壁となると思いますが、育ってきた背景がちがうと、こんなにも違うのかと思いました。(感想ですみません)
⇒ (保センターより) 御指摘のように、病気の認識、相談する相手、医療機関の受診時期など、大きく違いがあるようです。特に、日本のように医療費の自己負担が少なく、医療機関へのフリーアクセスが確立している(いつでも、どこでも早めに受診することができる)状況を理解するまでに、相当の時間を必要とするようです。また、日本のように、「早期発見、早期治療」や「疾病予防」に力を入れる価値観も持っていない(教育されてこなかった)人が多いようです。
- 現状を把握できていないので申し訳ありませんが、英語版の書類を用意してほしい。特に、緊急時の案内が最も欲しい。
⇒ (保センターより) 近隣大学の医療機関案内をはじめ、健康啓発に関する“保健管理センターニュース”は日本語版、英語版の両方で行っており、HP にアップしています。御利用ください。しかし、御指摘のように、先生方に周知いただくことが少なかったかもしれません。このことについては、一度、学内メールなどで御案内したいと思えます。
- 食生活に関する指導等があるといいかと思えます。
⇒ (保センターより) 毎週火曜日に、管理栄養士の栄養相談日があります。いつでも御予約いただけます。健康診断時などに、栄養の問題が示唆される学生には(特に、やせや肥満など)医師、保健師、看護師の健康指導をしております。その後、管理栄養士による栄養相談も案内しています。
- 配偶者に関する相談にも適宜対応してやって頂きたい。(助言程度で十分)
⇒ (保センターより) しばしば、御夫婦で当センターを訪れる留学生の方もいます。(配偶者も学生であることもあれば、そうでないこともあります。)健康に関する相談では、入院のことや費用のことなど、時には生活改善が必要なことなど、家庭生活に深く関わることも少なくありません。また、日本語の医学用語がわかりにくくても、英語で説

明するだけで理解いただけることもあります。時には、配偶者の方と一緒に来てもらってお話しをすることもあります。

- **日本に悪い思い出ができないよう配慮してやってください。**
⇒ (保センターより) おっしゃるとおりと思います。最善の方策と最良の親切をお手伝いできるようにしたいと考えています。
- **夜、清掃のアルバイトをしていて、昼間疲れている様子が時々見られた。これは留学生に限らない。**
⇒ (保センターより) 御指摘のように、アルバイトと学業の両立がうまくいかないと、心身の疲れから体調不良をきたす学生がいます。深夜の作業だと睡眠にも影響することがあります。勉学に集中できるような経済的支援の仕組みがたくさんできると良いのですが、我々は健康第一であることを留学生に限らず全学生に指導しています。
- **英語は使えますでしょうか。**
⇒ (保センターより) 内科医師と精神科医師の診察は英語ですべて対応します。
- **学業や生活について計画性のない留学生が増えている。また、極端に落ち込む場合が多い。メンタルヘルスでの相談が増えると思います。教員への対処方法のサジェスションも今まで以上にお願いします。**
⇒ (保センターより) (英語も使用し) 十分かつ様々な情報を早めに留学生に提供することが、留学生の計画性を促すことになるかもしれません。保健管理センターでは、健康に関する様々な情報を、「保健管理センターニュース」(英語版&日本語版)として、HPにアップしています。
- **国民健康保険の加入の説明。**
⇒ (保センターより) 新入生ガイダンスでは是非ともお願いしたい点です。連合農学、連合獣医、連合創薬の研究科のガイダンスでは、保健管理センター教員が、英語で説明しています。
- **昨今、日本の学生さん含めいろいろ大変ですが、できるだけ手厚いバックアップをよろしくお願いします。**
⇒ (保センターより) 教職員の皆様と密に連絡を取りながら支援させていただいております。御心配な点、お気づきの点は、早めに御連絡をいただけますようお願いいたします。
- **留学生センターと協同して、定期的に心身の状態を聴取する機会があればよいです。(当分野にも留学生がいますので)**
⇒ (保センターより) 来日直後の健康診断では、結果説明の機会に全員にお会いしています。その後も、毎年の定期健康診断で体調について必ずしも問診をしますので、定期健康診断を必ずうけるよう御指示ください。
- **留学生の中にはラマダン(断食)を宗教のためする人がいます。実験(研究)では体力を要するものもあるため、体調管理が心配な時があります。**
⇒ (保センターより) 健康診断の採血結果にも影響することがあります(ラマダンの時期は早朝の採血でも空腹ではないので)。僭越ですが、宗教的行事も御理解いただいて、学業の御指導計画を立てていただけるとありがたいです。
- **留学生にかかわらず、学生が保健管理センターの紹介状を持参して附属病院を受診することがありますが、軽症で大学を受診する必要がない人でも基本的に大学病院を紹介されるのでしょうか。**
⇒ (保センターより) 私ども、保健管理センターの医師も全員、大学病院で外来を担当していますので、現状は理解しているつもりです。病状に応じて、適切な医療機関を紹介するよう努力しております。軽症の場合、近隣の医療機関にお世話になっています。学生にとっても利便性がよいはずですが、我々も、お忙しい大学病院の先生方に御負担をかけることは全く本望ではありません。しかし、ごく稀に、強く大学病院への紹介を希望する学生がおり、指導に苦慮しておるのが現状です。どうぞ御容赦願いたいです。

- エジプシャン対応。日本で子供を産むことが多い。

⇒（保センターより）日本は医療レベルが高く、子供手当や出産費用支援など、様々な社会保障制度が整っていますので、出産したいと考える留学生の気持ちはわからないでもありません。しかし、私どもも無理をしないよう指導しています。先生方にも、親身な相談相手や助言者になっていただけるようお願いしたいです。

- 現状を知らずに申し上げておりますが、研究室に所属している留学生は小さな子供と暮らしており、子供の病気でよく病院へ行きます。そうしたケアも大学できると留学生の心理的な負担が軽減されるのではと思います。

⇒（保センターより）（現実的には）留学生さんの相談内容には家族の健康に関する事も多くあり、私どもとして、医療機関の紹介など、できる限りの助言をしております。尚、日本の国民皆保険制度は、留学生の家族も保険でカバーされ、お子さんはある年齢までは自治体の医療費免除の対象になりますから、治療が必要ならば医療機関を受診すべきと考えます。

- 原因の解明をおねがいします。学生が安心して留学でき、楽しめる環境の提供が重要と思います。

⇒（保センターより）今回のアンケート調査で、健康支援に対する留学生の満足度は決して低くありませんでした。私どもも、益々精進して、“安心して留学でき、楽しめる環境”づくりのお役に立ちたいと考えています。

- 病気は可能な限りセンターにて治療していただきたい。

⇒（保センターより）保健管理センターは学内で発症した体調不良やケガの応急措置に対応できるよう衛生材料や内服薬を準備しております。（大学予算で対応しています。学生に費用負担はありません。）しかし、検査や経過観察をする体制は全くありません。国民健康保険で安価で良質の医療が、平等にかつ自由にアクセスできる日本では、病気の診断と治療は医療機関を受診すべきです。保健管理センターは、受診の前の段階、つまり、受診すべきかどうかの助言、それから疾病予防、早期発見、健康教育、啓発などを担っています。キャンパス外の医療費が高騰している米国とは保健管理センターの状況も理念も少し違います。

- 定期検診をすすめる。留学生の生活環境（経済環境も含めて）の把握。

⇒（保センターより）御指摘のように、定期健康診断は、学生の何らかのサインをキャッチする良い機会と考えています。また、私どもが把握した学生の悩みや困難について、医療的には解決できない点については、先生方に報告し、社会支援、学生支援との連携がとれるようお願いをしています。

- かかりつけ医をつくるように指導してほしい。

⇒（保センターより）重要な事だと思います。大学の近隣の医療機関、とくに開業医の先生方には多くの学生に相談していただき、たいへんお世話になっております。また、学校医としても御登録をいただいています。

- 英語での対応ができるようお願いします。

⇒（保センターより）極力、対応しています。とくに、内科医と精神科医は英語ですべて対応します。

- アンケートをとるなど、いろいろ配慮していただいていること、指導教員として感謝しています。この配慮、地道なケアの積み重ねこそ、本当の「国際化」に必要なことです。今以上の予算措置も必要と思います。（もちろん、教育面での予算措置が最も大切ですが。）

⇒（保センターより）御理解をいただいているお言葉、ありがとうございます。

- 大学がどのようなメニューを用意対応していただいているか、職員としてよく知りませんでした。留学生受け入れが決まった時にアナウンスをしていただけると助かります。

⇒（保センターより）保健管理センターニュースとして情報を発信しています。保健管理センターのHPをご覧ください。

- 「心身」のうち「心」の方は教員としても気にかかります。センターさんと指導教員との連携が取れると良いと思いま

す。

⇒（保センターより）心の悩みをかかえた学生については、学生の了承のもと、指導教員の先生と連携、協働して対応させていただいているケースも少なくありません。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

- 定期的な健診を実施してモニターすることにより、重大事を未然に防ぐ。
⇒（保センターより）御指摘のとおりです。定期健康診断を必ず受けるよう先生方からも御指導ください。
- 家族も留学生と一緒に来ている場合、言葉の面で不自由なことが多くあるので気を配ってあげてほしい。
⇒（保センターより）御家族の健康管理についてのアドバイスはさせていただいております。
- 食生活等、日本の習慣になじまないことも多いので、様々な支援、指導面で配慮が必要だと思います。
⇒（保センターより）まったく御指摘のとおりと思います。
- 心の面での適応を図る。日常の診療（発熱、下痢など）の情報提供。
⇒（保センターより）保健管理センターニュースとして情報を発信しています。保健管理センターのHPをご覧ください。
- 日本人学生と同じでよい。
⇒（保センターより）日本人学生と同じように親身になって支援しております。もちろん区別はありません。
- 個人情報保護との関係もあると思いますが、抱えているトラブル等、社会全体で解決を必要とすることが多いと思います。ある程度、方法を考え、課題をオープンにしていくことも必要と思います。
⇒（保センターより）適切な御示唆をありがとうございます。今後とも、HPなどで皆様に情報を御提供してまいります。
- 留学生はマイナリティーな存在です。（自分が海外に行った経験も踏まえて。）そのような存在をうまくフォローできる場、孤立しないようにする場（パーティー？）があると良いと思います。
⇒（保センターより）まったく御指摘のとおりと思います。
- アクセスしやすいようにしてあげてほしい、言葉の対応など。
⇒（保センターより）最大限の工夫と努力をまいります。
- 気軽に入れるようになったらいい。
⇒（保センターより）学生が気軽に立ち寄れる雰囲気づくりにも、今後とも努力を重ねてまいります。